

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：「地殻災害の軽減と学術・教育」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

なし

3 開催日時：2013年11月16日（土） 10時00分～17時00分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

東日本大震災の後、地震学・火山学を中心とした自然科学分野と実学としての人文社会科学の連携が強くのぞまれている。現在、地殻災害をめぐる、学術の鼎の軽重が問われているという認識の下に、地震学、火山学、地質学、地理学、歴史学（文献・考古）、防災研究などの諸分野が集まって、状況を報告しあい、地殻災害の予知・予測・警告や情報管理のあり方、防災・地学教育のあり方、歴史地震・噴火の研究など多様な問題を討議することとした。なお、科学技術学術審議会測地学分科会より、来年度から5年間の地震火山観測研究計画が発表されており、その趣旨も討議の対象となる。

6 参加人数：

講演者等：11名

その他の参加者：60名

7 特記事項：

充実した内容であり、『学術の動向』特集への掲載を依頼している。

新聞記者三名の参加があった。

同様のシンポジウムや協同的な検討を今後も考える可能性がある。

地震学・火山学を中心とした災害科学の研究と防災の体制や学際的な研究のための体制について史学委員会・地球惑星科学委員会・地域研究委員会において議論を行う。